

# たかねやま

## ～「やってみよう」「やってみたい」を大切に～

校長

「あっという間に、6月になってしまいました。」毎朝、校門に立っていると、いろいろな方とお話するチャンスがあります。そんな時、ある保護者の方が話してくださった言葉です。毎朝、慌ただしい生活の中で子供たちを送り出している保護者の方ならではの思いではないでしょうか。

しかし、ある地域の方は、「みんな、元気で楽しそうだね。」「あいさつも元気になってきたよ。」と話してくださいます。今、根本小学校では、子供たちに、「やってみよう」「やってみたい」を大切に学習や活動を行い、日々いろいろなことに挑戦させています。



【6年：踊り隊】



【5年：ソーラン節実行委員】



【石拾い・草取りボランティア】

6月10日の体育参観日に向けて、6年生では、事前に、自主的に演技を練習するボランティア「踊り隊」を募集して学年練習に臨みました。自分から「や

ってみたい」と申し込んだため、休み時間の練習も前向きです。わずかな時間も惜しんで練習に励んでいます。5年生は「ソーラン節実行委員会」を決め、学年練習に先行して踊りを覚えました。運動場の石拾いや草取りも、体育委員会が中心になりボランティアを募集しました。昼休みになると、スコップなどを取りに来て、自分から進んで時間いっぱい取り組む姿がありました。



授業でも、「やってみよう」「やってみたい」を大切にしています。一人では分からなかったことを友達と学び合う、グループの友達と協力して考える学習を行っています。一人だけだと難しいことも、仲間とかがわり合いながら挑戦することで、最後まで頑張ったり、できるようになったりする

こともたくさんあります。こうやって頑張ったことを自分の自信につなげ、さらに「やってみよう」「やってみたい」を増やしています。

### 親育ちコーナー

#### 6月号 「生まれてきてくれてありがとう」

多治見市教育委員会教育推進課

間もなく梅雨。通学路に、たくさんの傘が揺れる季節になります。新年度が始まっておよそ2か月。進級した学年で、新たに誕生日を迎えた人の数も日々増えています。色とりどりの傘は、大切な命の記念日に、お祝いを伝えてくれる花のようです。

私たちは、不思議な縁で巡り会った父と母から生を受け、今を生きています。その父と母も、そのまた父と母も、それぞれの父と母とが出会ったことで、この世に生まれてきました。そう考えると、出会いの不思議さとともに、自分が自分であることや、今日の前にいるこの子が、わが子となってくれたことが、どれほどかけがえのないことが実感されます。そんな思いを込めて、お誕生日を機会に、いえ、そうでなくとも、おりに触れ、「生まれてきてくれてありがとう」とお子さんに伝えてみませんか。その言葉は、じんわりと温かく、お子さんに届くことでしょう。そうして、自分も他の人も、大切にかけがえのない存在だと感じ取る力が、心の奥深くで、優しく育つことでしょう。

(家庭教育担当)